

## 1 自己評価及び外部評価結果

作成日：平成25年 2月6日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072300355		
法人名	有限会社 野いちご		
事業所名	グループホーム 野いちご	ユニット名	
所在地	福岡県八女市矢原51番地1		
自己評価作成日	平成24年12月22日	評価結果市町村受理日	平成25年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構
所在地	福岡市博多区博多駅南四丁目3番1号 博多いわいビル2階
訪問調査日	平成25年2月4日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方々に恵まれ、地域に、そして利用者、家族に支えられたグループホームだと思います。地域に貢献し、利用者、家族が安心していただけるようなグループホームを目指しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

八女市にある“グループホーム野いちご”は開設から10年を迎えた。専務、事務長、チーフ等の幹部の方々の結束は強く、職員の間も結束し、“野いちご”で生活する方々の生活を支え続けている。年々、職員の自主性と観察力も高くなっており、体調の早期発見・早期治療に繋げる事ができている。冬の時期は感染症対策にも力を入れ、風邪予防のエアマスクを専務が購入し、職員も毎日胸から下げ、買い物時には利用者の方も胸から下げている。お天気の良い日には、利用者と一緒に菜の花を摘みに出かけたり、田畑を眺めながらお散歩をする姿が見られ、自然を感じながら寛いだ時間を過ごされている。お月見の時には“月見パーガー”を皆さんと食べたり、お盆の時はだご作り、冬には干し柿作りも楽しませている。ボランティアの方(ハッピーマザーズ)が毎月ホームに来て下さり、紙芝居や体操、ことわざクイズなどをして下さり、利用者の方も楽しみにされている。終末期にも、「今」を大切にしたい温かいケアが行われ、専務を中心に家族の揺れ動く思いにも寄り添っている。「自分が死んだ後も、(ホームに)トマトを持ってきてほしい」というご本人の意思を受け継ぎ、家族の方が手作りのトマトを届けて下さっている。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『『今』を大切に』という基本理念に基づいて、日常のケア、申し送り時、ミーティング、職員会議を通して、その都度共有できるようにしている。	(1)『今』を大切に暮らしから始まり、(6)地域と密着した(7)ご家族が気軽に立ち寄っていただけるという地域密着の視点も盛り込まれている。「今」できることをしていこうという思いが職員に浸透し、終末期ケアにも精一杯取り組まれた。外出支援にも力を入れ、日帰りの温泉やバインクなども楽しんでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内会行事(道路愛護、不燃物回収、神社、公民館の草取り清掃など)に参加し交流している。	近隣を散歩する時は地域の方と挨拶している。畑で採れた野菜や果物などを頂くこともあり、ハッピーマザーズ(ボランティア)の方との交流も継続している。小学校の運動会や学芸会の時には、トイレに近い席を準備して下さり、利用者もとても喜ばれている。高校(福祉課)の実習も受け入れ、卒業後、ホームに就職された方もおられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	慰問の受け入れ等を行うことで、認知症は特別ではないということを分かっていたかのようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実施した行事の報告と、予定を伝え、何かいいアイデアがないかを会議の中で参加者から意見を聞いたりして、できるだけサービス向上につなげていけるようにしている。	利用者、家族、地域代表の方、市の担当者に参加頂き、2ヶ月に1回開催している。ホームの近況報告や行事報告を行うと共に、敬老会の時に一緒に会議を行うなど、参加しやすい雰囲気を作っている。それぞれの方からの質問に答えながら、意見交換を続けており、「野いちご新聞」にも会議内容が紹介されている。	今後も会議に参加しやすいように、開催時間の検討を行うと共に、テーマ(様々な講和)によっては地域の方にも公開し、地域の方が参加しやすい会議にしていきたいと考えている。今後も地域の実状を知り、地域に必要な事の把握に努めていく予定である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回来ていただいており、積極的とはいえませんが、市町村の担当者とは日頃から連絡をとったり、必要に応じて協力しあったりしている。	更新申請時には、介護支援専門員が市の窓口を訪問しており、地域密着型事業所の集まりの時に市の方に相談する事もある。運営推進会議で市の方に「野いちご新聞」を渡しており、ホームの取り組みを報告している。書類に関する不明点などを相談した時にも親身に対応頂いており、指定更新時にもアドバイスを頂く事ができた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は基本的に21時～6時までの間を防犯目的として行なっている。身体拘束廃止ということを職員会議やケア会議などその都度考えるようにしている。	利用者の不安の原因を知り、少しでも安心できる方法を検討している。「帰宅願望」の強い方には、毎回、誠実に対応しており、ホームで楽しく過ごせるように努めている。気分転換の目的で玄関の椅子に座って会話をしたり、自宅近くまでお連れする事もある。「身体拘束を行わない」事とリスクを家族に伝え、理解して頂いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止と同様に、会議などで「虐待防止」を促している。日頃から全身状態の確認や気付いたことがあればその都度報告し、スタッフ間で話し合っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議を利用して、地域包括支援センターから講師に来て頂き、「成年後見制度」の講義を受けた。	現在、両制度の利用をしている方が3人おられる。説明用のパンフレットをホームの玄関に備え付けてあり、事務長と介護支援専門員の方が、適宜サービスの必要性の検討をしている。24年6月には、地域包括の方が運営推進会議で制度の講義をして下さり、欠席の家族には資料が配布された。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度、説明して、ご理解いただいていると思う。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見などを、ケアプランへ反映するようにし、運営推進会議などで伝える必要があれば、そのような機会を設けている。	写真入りの新聞やお便り(担当職員が手書き)を通して、家族に暮らしぶりを報告し、家族の来訪時にも「何かないですか」とお尋ねしている。敬老会にも多くの家族が参加して下さり、天気の良い日は一緒に散歩もして下さっている。面会時に家族がハーモニカを吹いて皆さんと合唱したり、手作りの本を読んで下さる方もおられる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議を行ない、意見や提案などが出やすいように各棟で分かれた会議も行ない、反映できるようにしている。	専務、事務長、チーフのお人柄もあり、意見を言いやすい環境が作られている。毎月の全体会議や各棟会議、申し送り時にも、行事やケア内容等の意見が増えてきている。「初詣は暖かい時期に」「氏神様へ」などの意見もあり、可能な限り、運営に活かすように努めている。常に“利用者”を中心に意見交換が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	公休希望を聞くことにより、資格取得や子育て支援ができるように努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢や性別等で採用を断ることはなく、そのスタッフが利用者の立場に立つ力量を重視している。また、良い能力や意見があれば取り入れるようにし、希望の休みを聞くなど、社会参加なども出来るよう配慮している。	経験のない方でも、気持ちがあっ直ぐな方や介護職を希望している方を採用している。職員の年齢層は幅広く、年代に応じた考え方を尊重している。何事も受け止めて下さる方、持続性がある方、日本舞踊が特技、オカリが吹ける方、パソコンが得意な方など、職員個々の力を発揮し、資格取得のための勤務調整も行われている	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日頃より、ケアを通して人権・尊厳についての啓発を促している。今以上に基礎的な教育の場を設けていきたい。	“笑顔であいさつ”と言う言葉を事務所の壁に貼り、利用者の方々を人生の先輩として、日々の寄り添いを続けている。「こんなにはしていますが、私達の母なんです」と言われた家族の言葉を胸に刻み、専務は職員にも“その言葉”を伝えている。利用者個々の“これまでの人生”、母・父としての役割を振り返る機会にもなっている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のレベルに応じた地域グループホーム部会の研修に定期的に参加していただいている。毎月の会議の中で、勉強会などを組み込んだりしていこうとしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八女地区介護保険事業連絡協議会のグループホーム部会を通じ、同業者間との情報交換や交流を行なっている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	精神・身体状況を勘案し、アセスメントシートなどで、情報収集を行なったうえで、利用者にとって最善の環境で受け入れられるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の利用に至るプロセスを十分に把握し、これからホームでの生活を家族と共に協力し、御家族から安心される環境作りに取り組んでいる。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ほとんどが入所という事を決めた上で相談に来られることが多く、相談件数は少ないが、その状況をお伺いしたうえで対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフそれぞれが意識しながら関係作りを行なっている。例えばできそうなことはお願いしたり、一緒に行なったりしており、無理強いをしないようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	基本的に面会時間の制限は行わず、いつでも面会できるようにしている。その時に御家族から色々な話をスタッフが聞いたりして、ケアに反映できるようにしている。		



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族や近所の方々が来られた時は、できるだけゆっくり過ごしていただけるような雰囲気作り、もてなしをしている。	日頃の会話の中で、馴染みの人や場所を知るように努めている。ホーム周辺が馴染みの場所の方もおられ、近所を散歩した時や受診の時に知人の方にお会いし、ホームに来て頂けるように声かけしている。家族の協力も頂きながら、お墓参りや法事に行かれている方もおられる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を大切にし、1人でおられる時は、スタッフが話しかけたりして孤立しないような支援を心がけている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に御家族へは「何かあった時は連絡してください」と声掛けしている。町で会った時でも気軽に話しかけたり、話しかけられたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちに寄り添うことで把握し、何がこの方にとって必要かを考えながら検討している。	意思疎通が難しい方もおられ、職員からの声かけを元気にする事で、利用者からのお返事を引き出している。些細な表情(顔色・血圧)の変化や仕草から体調や気持ちを汲み取る努力をしており、家族の面会時に生活歴やお好きな事を教えて頂いている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメントからの情報や入所後も本人や家族などから以前の情報を聞いたことをケアにつなげている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の生活状況を記録に残し、スタッフが把握しそれぞれの一日の過ごし方を支援している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	何か問題があるときは、その都度スタッフ間で検討し、毎月の会議にて利用者がよりよく暮らすための課題やケアの在り方について検討を行っている。	介護支援専門員と担当職員が中心になり、アセスメントが行われている。ご本人と家族の意向も書かれており、全職員や主治医の意見も踏まえた計画となっている。栄養管理と合わせて、歩行訓練等のリハビリの視点も大切に計画が作成されている。	アセスメントシートの作り変えをしており、排泄や入浴、家事など、ご本人が“できる事”を記録すると共に、“モップ拭き”や“洗濯物たたみ”など、ご本人の役割や楽しみ事も2表に明記していく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	何か気付いたことなどがあったときなどは、介護記録に※印をつけたり、赤字で記入したりしてわかりやすくしている。そして申し送りノート等を活用し情報を共有している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるだけ馴染みの関係を大切にして柔軟な支援を心掛ける。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	穏やかな地域環境のため、散歩などで四季を感じたりすることができている。それに慰問の受け入れや小学校の行事へは積極的に参加している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には今までのかかりつけ医を継続していただいている。何かあれば家族に連絡しながら対応している。	往診や受診結果は、面会時やお便りで家族に報告し、家族が通院介助された時も報告を受けている。式番館の看護師が毎週訪問して健康チェックが行われ、体調変化も迅速に看護師や主治医に相談できている。歯科医師の往診もあり、口腔ケアの指導を頂いている。職員の観察力も高まり、報連相が早期にできるようになっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師訪問があり、その際看護師に情報を伝えたり相談を行っている。また、かかりつけ医院の看護師に相談を行うことで、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	生活環境の変化により悪化するケースがあるため、利用者、家族、医師や医療連携関係者とも相談をし、早期退院を促している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合などの対応については、必ず説明し、同意を得ている。そして、そのような状況が見込まれるときに再びご家族等と話し合いを行っている。	契約時に終末期等の意向確認をしておき、「最期までここで…」という方も多し。利用者の状態が悪化した場合は、夜間でも主治医が往診して下さり、職員の安心にも繋がっている。家族も頻りに来られ、点滴時はご本人の手をつなぎ、そばで付き添って下さるなど、職員と一緒に、ご本人を大切にされたケアが最後まで続けられている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難誘導訓練時に、応急手当などの講習を受けたりもしている。現在AEDを設置しています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署より指導員に来ていただき、年2回の避難誘導訓練を行っている。	消防署の方・利用者・家族と夜間想定訓練が行われ、24年11月には地震火災、風水害対策講習も行われた。「実際の夜の火災は真っ暗ですよ」と言う言葉が印象に残り、今後も実際を想定しての訓練を重ねていく予定にしている。23年11月に消防団の方も見学に来て下さり、災害に備えて非常食等も準備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフには特に言葉づかいに注意していくように促している。そして、その場面場面に応じた対応を心掛けるように伝えている。が、配慮に欠けるようなときもみられるため、その時はスタッフ間で注意しあったりするようにし、日頃より意識づけするようにしている。	職員のチームワークを大切にしており、より良いケアに繋げるように意見交換をしている。方言を使う時もあるが、ご本人に応じた言葉を選び、語尾を柔らかくするように努めている。1人で過ごされる事を好まれる方もおられ、その時々に応じた過ごし方をして頂いている。個人情報保護も徹底し、職員も日々気をつけている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフには、利用者に寄り添うように促している。そして、訴えに耳を傾け、自己決定していけるような支援を目指している。場合によっては、業務優先になったりすることがあるので、スタッフ間で注意したり、利用者への配慮(利用者本位)を意識づけるようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフには、利用者に寄り添うように促している。そして、訴えに耳を傾け、相手のペースにあった支援を目指している。場合によっては、業務優先になったりすることがあるので、スタッフ間で注意したり、利用者への配慮(利用者本位)を意識づけるようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれ等ご自分でできる方にはお任せしたり、確認したりして、その人らしいコーディネートを考えながら支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや下膳などできる利用者には手伝っていただき、スタッフも一緒におこなっている。旬の食材を使用し、季節感も一緒に味わっていただけるよう心掛けている。	ホームの菜園で採れた野菜や、地域の方から頂いた野菜などの他、社長が釣ってきて下さる魚を使って、旬の料理が作られている。天気の良い日はテラスで食事をしたり、お弁当を持参し、お花見を楽しまれている。1つのユニットでは、利用者の方がお米ときや下ごしらえをして下さり、1つのユニットでは、お盆拭き等をして下さっている。	温泉に出かけた時のバイキング料理が好評で、今後も、おやつの時間に好きなものが選べるような“お茶会”などをしていきたいと考えている。更なる楽しい取り組みとなる事を期待していきたい。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食料・水分量は日々把握している。例えば食事量の低下がみられる時は、本人の好きそうなものを食べて頂いたりして、少しでも食欲が出るような工夫をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、希望者には歯科医による週1回の口腔ケアを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ利用者個々に応じた排せつ介助を行っている。定時の声掛けや、それぞれの排せつパターンにあわせてトイレでの排せつを心掛けている。	布の下着を着用している方や、夜も排泄が自立している方もおられる。なるべくトイレでの排泄ができるように支援しており、パッドを使用する時間帯や、パッドの大きさについても個々に検討し、自立支援に向けた話し合いが行われている。トイレでの排泄時は扉を閉めるなど、羞恥心への配慮もしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に関してはスタッフ間で特に気にかけている。できるだけ自然な排便ができるように、常に話し合っている。(水分量・運動・牛乳・きな粉牛乳・コーヒー牛乳など)それでも排便がない時に緩下剤や下剤などと服用するようにしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日午後より入浴を行っているため、その範囲内で利用者個々の希望に添うように心掛けている。その時間以外の希望があれば、その時は状況をみながら対応していけるようにしている。	利用者の希望や好みに応じて、入浴時間、湯温などに対応している。入浴を好まれない方は声かけを工夫し、心地よく入浴して頂いており、体調に応じて2人介助をしている。入浴時は職員との会話を楽しみ、柚子湯や菖蒲湯も行っている。“べんがら村”の温泉は好例で、ハイキングや家族風呂での入浴を楽しまれている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者それぞれの習慣やライフサイクルを考慮したうえで安眠できるように配慮している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医より指示された副作用については、スタッフに申し送っている。特に緩下剤などの調整は、スタッフ間、主治医と検討している。		



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴を確認しできることを見出し、したい事の希望に沿って個別に役割・気分転換等の支援を行っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じられるような外出行事をおこなったり、買い物と一緒にいたりしている。家族より外出や外泊の依頼があったときはスムーズな外出ができるように支援している。	食材の買い出しに出かけ、利用者がカートを押して下さっている。お天気の良い日はホーム周辺の散歩を楽しまれ、季節に応じて、南関の桜やコスモスを見に行かれたり、柳川の中山公園の藤の見学にも行かれている。家族の協力で外出する機会もあり、病院受診の後に外食をされたり、お正月には外泊や外出を楽しまれた方もおられる。利用者の希望で自宅に出かける方もおられ、職員も外出好きな方が多い。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人から要望があれば、立替金から本人に渡し使っていただけのようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から要望があったときは、支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に生活音には注意している。利用者が不安になったり、混乱を招くような音、動きはしないように心掛けている。散歩のときに摘んできた花を飾ったりしている。においの面では尿とりパットなどは新聞紙に包んだりして捨てている。	ユニット毎にリビングから見える景色が違い、季節の移りを感じる事ができる。リビングの天井は高く、圧迫感のない造りとなっている。車いすの方が増えた事もあり、畳の間をフローリングに改装し、利用者の方がモップを持って掃除を下さっている。職員も整理整頓を続けており、利用者の状況で席の配置替えも行われ、時間を決めて窓を開けるなど、換気にも配慮している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれに配慮し、他利用者との交流の場を作ったり、独りになりたいようなときは、そのような時間も大切にしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ持参していただけるよう、入所時には伝えている。	居室の入り口には、担当職員手作りの表札が掛けられている。居室にはベッドやタンス、鏡台も持ち込まれ、家族の写真やお位牌などを置かれている方もおられる。畳の部屋を希望される方には、畳を敷くなどの対応も行い、必要に応じて電動ベッドの貸し出しも行われ、一人ひとりに合わせた手すりも設置されている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者それぞれに『できること』『わかること』をスタッフが把握し、できるだけ自立した生活ができるように支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

事業所名： グループホーム 野いちご

作成日： 平成 25 年 3 月 5 日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	今後も会議に参加しやすいように、開催時間の検討を行うと共に、テーマ(いろいろな講話)によっては地域の方が参加しやすい会議にしていきたいと考えている。今後も地域の実状を知り、地域に必要な事の把握に努めていく予定である。	運営推進会議により多くの参加を頂き、当ホームに関心を持ってもらい、ご意見等を頂く。	参加できる時期時間帯をアンケートなどで尋ねる。ご家族、地域の方が、興味や必要とされている事等もアンケートし、テーマを選ぶ。	12 ヶ月
2	28	アセスメントの作り変えをしており、排泄や入浴、家事など、ご本人ができる事を記録すると共に、役割や楽しみ事も2表に明記していく予定である。	アセスメントを通して、ストレングスに目を向け伸ばす、活かす事を支援していく。	記入しやすいアセスメントシートを使用し、ご本人がいきいきと生活できるようチームで同じ視点を持ち、支えていく。	12 ヶ月
3	42	ホーム内では、ご自分が選び好きなものを好きなだけ、食べるというが出来づらいので、出かけた時のバイキング料理は特に好評です。今後は、好きなものを選べる、お茶会などをしていきたい。	四季を感じて頂き、リラックスできるお茶会を催していく。	どんなお菓子が喜ばれるか把握し、季節も感じてもらえるような思考を凝らしていく。個人の状態も勘案しその方にあつたものを提供する。	12 ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月